



国土交通省

成田国際空港におけるボディスキャナー実証実験の実施について

平成 22 年 6 月 18 日
国土交通省 航空局

1. ボディスキャナー実証実験実施に至るこれまでの経緯

昨年 12 月 25 日に発生した米国機に対するテロ未遂事件は、金属探知機による保安検査では探知できない化学物質が爆薬として使用されたものです。

このテロ未遂事件を受けて世界各地域で航空機に対するテロを防止するための閣僚級会合が開催され、3 月 13 日に東京で開催されたアジア太平洋地域航空保安大臣会合における共同宣言において、「個人のプライバシーや安全を尊重しながら、持ち込みが禁じられている物質を検知し、またそのような物質の機内への持ち込みを阻止するために現代技術を活用する」ことが盛り込まれました。

また、すでに多くの国々で、このような化学物質等を検知できるボディスキャナーについて、運用または試験が行われており、アジア太平洋地域航空保安大臣会合においても、参加国からボディスキャナー導入に関する積極的なプレゼンテーションが行われました。

このような状況を受け、3 月 30 日、国土交通省は、成田空港においてボディスキャナーの実証実験を行うことを発表し、その実証実験の実施準備のため、実施方法や評価方法等を検討する「ボディスキャナー実証実験実行委員会」(別添 1 メンバー表参照) が 4 月 26 日に発足しました。

同委員会は、これまで 3 回にわたり審議が行われ、本日、実証実験の実施方針について報告がとりまとめました。(別添 2 報告書参照)

2. 成田国際空港におけるボディスキャナー実証実験の実施について

この報告を受け、国土交通省は、7 月 5 日より 9 月 17 日までの間にわたり、5 機種について実証実験を行います。

今回の実証実験は、新たな航空機に対するテロの脅威に対する対応策を検討する上で極めて重要なものであり、また、多様な機種を比較検証するという点では、国際的にも先進的で意義の大きい実証実験であると考えます。

実証実験は、成田国際空港の保安検査場前のスペースにて実施するものであ

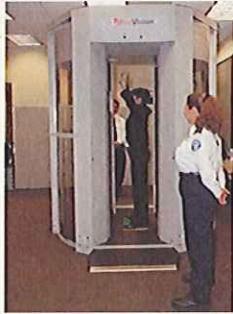
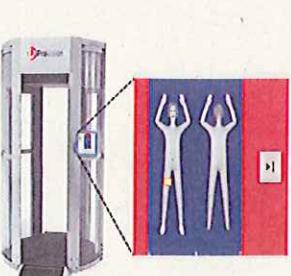
りますが、空港のご利用者をはじめ関係の皆様の、ご理解とご協力をよろしくお願ひ申しあげます。

3. 実証実験の対象となる機種について

以下のミリ波やテラ波を活用するタイプの5機種を対象に、以下のスケジュールにて実証実験を行います。

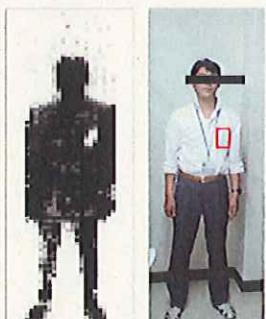
(1) ミリ波を人体に照射するアクティブタイプであるが、鮮明な画像が直接調査員の目に触れることのなく、機械内で自動検知する機種

(機種名) L 3 社(米国) アクティブ型ミリ波 自動検知式 ProVision ATD
(実証実験実施期間) 7月5日(月)～7月9日(金)

		L3 Communications(米国) ProVision™ ATD $2.7 \times 2.0 \times 2.7(m)$ 682kg	被検査者が指定された場所に立ち静止する。前後の検知器がスライドする。隠匿した物があるかは機械が自動判別し、装置に付いているモニターに表示。
--	--	--	---

(2) 人体が発するミリ波を検知するパッシブタイプで、我が国で研究開発している機種

(機種名) 東北大学、中央電子、マスプロ電工パッシブ型ミリ波 MPI 2
(実証実験実施期間) 7月20日(火)～7月24日(土)

		東北大学・マスプロ電工・中央電子 MPI2 $0.8 \times 0.8 \times 1.5(m)$ 200kg	被検査者が指定された場所に立ち静止する。機器脇の画像調査者がマーキングを参考に隠匿した物があるか判別する。
---	---	--	---

(3) 人体が発するミリ波を検知するパッシブタイプ

(機種名) ブリジョー社(米国) パッシブ型ミリ波 SAFE SCREEN

(実証実験実施期間) 8月2日(月)～8月6日(金)

		<p>Brijot Imaging Systems(米国) Safe Screen $1.47 \times 1.59 \times 2.14(m)$ 473.5kg</p>	<p>被検査者が指定された場所に立ち静止する。機器脇の画像調査者が隠匿した物があるか判別する。</p>
---	---	--	---

(4) 人体が発するテラ波を検知するパッシブタイプ

(機種名) スルービジョンシステム社(英国) パッシブ型テラ波 T 8 0 0 0

(実証実験実施期間) 9月6日(月)～9月10日(金)

		<p>ThruVision Systems (英国) T8000 $0.9 \times 0.7 \times 2.48(m)$ 230kg</p>	<p>被検査者が指定された場所に立ち静止する。機器脇の画像調査者が隠匿した物があるか判別する。</p>
---	---	---	---

(5) ミリ波を人体に照射するアクティブタイプであって鮮明な画像が映し出される機種

(機種名) スミス社(独) アクティブ型ミリ波 eqo

(実証実験実施期間) 9月13日(月)～9月17日(金)

		<p>Smiths Heimann(独) eqo $1.7 \times 1.1 \times 2.1(m)$ 350kg</p>	<p>被検査者が指定された場所に立ち静止する。別室にいる画像調査者が身体(被服内)に隠匿した物があるか判別しオペレーターに伝達する。</p>
---	---	--	--

4. 個人のプライバシー保護への配慮方針について

今回の実証実験の対象機種のうち、ミリ波アクティブタイプで鮮明な画像が直接調査員の目に触れるタイプのものについては、実証実験を行うに当たって、以下のような配慮を行います。

- ① 画像分析を行う担当者は、被検者が見えない場所（囲われた別室）にて分析を行います。また、画像は本人が特定できないよう顔にぼかしを入れます。
- ② 画像分析担当者は、被検者の選択又は被検者と同性の調査員とします。
- ③ 実証実験中は、画像分析を行う部屋には画像分析担当者以外の入室を禁止します。また、画像分析担当者は、実際の人と画像を見比べることができないようにします。
- ④ 画像は保存せず破棄します。（機械や機械に付属するソフト等にも一切画像記録が残らないようにする）
また、画像が画像分析室に送信される際に外部に流出しないよう、外部からのアクセスや他の場所への転送ができないようにします。
- ⑤ 画像分析室内へは、カメラ付き携帯電話、カメラ等記録媒体の持込禁止とします。

一方、アクティブタイプであっても機械内部で自動検知を行い調査員の目に直接画像が触れる事のないタイプのものやパッシブタイプのものについては、諸外国においては特段の配慮が行われるのが一般ですが、我が国での実験においては、以下の配慮を行います。

- ① 画像は保存せず破棄します。
- ② 画像は本人及び調査員以外の他の旅客等から表示画面が見られないようにします。

5. 実験の実施方法等具体的な実施方針

今回の実証実験については、一般の旅客等を対象として利用者の反応を把握する調査と、模擬爆発物等を携帯した調査員により検知能力を評価する調査の二つを行うこととしております。

その実施方針は以下の通りです。特に、一般の旅客等を対象とする調査につきましては、旅客等の皆様の任意のご協力を前提とし、実証実験にご協力頂く前に十分なご説明に努めます。

① 一般旅客等を対象とする運用実験

- ・ 実証実験は、空港を利用する日本人旅客を主たる対象として、任意のご協力により実施します。
- ・ 実証実験で得られた結果は保安検査の用途には用いません。(実証実験にご協力頂く旅客は、通常の金属探知機等による保安検査も受けて頂くことになります)
- ・ ただし、実証実験において、機械が反応した場合には、機械の検知能力を確認するため、任意に当該携帯物の内容等について問い合わせることもあることをご了承下さい。
- ・ 実証実験に協力して頂いた旅客等の反応を伺わせて頂きます。
- ・ 実証実験の実施内容については、本ホームページでの広報の他、実証実験の会場におきましても、その内容を掲示し、お問い合わせ等に対してご説明致します。

② 模擬爆発物等の携帯による検知能力把握試験

- ・ 保安検査場の閑散時間帯において、調査員が模擬の爆発物や凶器等を携帯し、検知能力試験を行います。

6. 成田空港における実験機の設置場所及び具体的な運用方針

成田空港における実験機の設置場所及び具体的な運用方針は以下の通りとします。(別添3図参照)

- ① 成田国際空港の第1ターミナルビル南ウイング保安検査場の入り口前の一つのラインに区画を設定し、本来の保安検査場に入場する前に、ボディスキャナーの実証実験を行います。
- ② 実証実験に協力して頂いた旅客については、調査担当者がそのまま保安検査場に優先的に案内することにより、スムーズな保安検査への流れを確保します。
- ③ 実証実験会場の手前には、掲示板、ビデオ、パンフレット等を配備した説明用のスペースを確保し、実証実験に協力される旅客等が実証実験の趣旨等を十分理解された上で実験を受けられるよう、十分な配慮を行います。